

Title	彙報
Author(s)	
Citation	懷德. 1977, 47, p. 56-57
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/90556">https://hdl.handle.net/11094/90556</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 彙報

## (懷徳堂記念会)

○記念祭典 昭和五十一年十月十二日(火)大阪大学松下会館四階東会議室に於て、午後一時二十分記念祭典執行、終つて大阪大学教授木村重信氏の「共同制作」についてと題する記念講演があつた。

○昭和五十一年十月十二日 幹事森川敏雄氏退任。南雲竜夫氏(住友銀行秘書役)幹事就任。

○秋季講座 昭和五十一年十月十八日(月)より二十三日(土)まで、本会及び大阪大学文学部主催、朝日新聞社後援で、大阪大学松下会館四階講堂に於て、毎日午後六時半より八時まで、第五十三回懷徳堂講座開講、聴講者延三百五十八人。

### 演題と講師

大阪城について	元大阪城天守閣主任 岡本 良一氏
大坂蔵屋敷と堂島米市場	大阪大学助教授 宮本 又郎氏
町絵図から見た大坂	大阪大学 矢守 一彦氏
豪商の商法と家訓	― 鴻池と住友の場合 ―
同	作道洋太郎氏

産業都市としての大坂	大阪大学助教授 脇田 修氏
倉密局とハラタマ	大阪大学教授 芝 哲夫氏

○春季講座 昭和五十一年五月二十三日より二十八日まで、本

会及び大阪大学文学部主催、朝日新聞社後援で、大阪大学松下会館四階講堂に於て、毎日午後六時半より八時まで、第五十四回懷徳堂講座開講、聴講者延二百八十四人。

### 演題と講師

朱子の礼学	京都大学教授 上山 春平氏
中国文学の性質―政治性	摂南大学教授 山川 昭一氏
夫婦の氏の歴史	大阪大学教授 熊谷 開作氏
詩経について	高野山大学教授 庄司 荘一氏
白楽天の文学	京都府立大学教授 花房 英樹氏
列子説話考	武庫川女子大学教授 山口 義男氏
○評議員 正田建次郎氏	昭和五十一年三月二十日逝去。謹んで哀悼の意を表します。
○評議員 金洞醇太郎氏	昭和五十一年四月十三日逝去。謹んで哀悼の意を表します。
○評議員 村山長華氏	昭和五十一年八月七日逝去、謹んで哀悼の意を表します。

### 懷徳堂記念扇子目録

(昭和四十一年以降)

昭和五十一年十月 中井履軒先生墨迹  
 (月落烏啼霜滿天 江楓漁火對愁眠 姑蘇城外寒山寺 夜半鐘聲到客船)

### (堂友会記事)

昭和五十一年十月二十日 懷徳第四十六号発行。

十一月三日 近江路に石馬寺、淨嚴院、沙々貴神社の見学を成す。御指導は宇野茂樹先生で、参加者三十余名、毎々乍ら一同満足して秋の一日を十二分に楽しんだ。

十一月五日 本会の創立者のお一人である山本櫛信氏が亡く成られた。謹んで哀悼の意を表します。

五十二年四月二十四日 同じく近江の東北部の木之本町に観音寺、洞寿院を余吾に源昌寺を、終りに余吾湖畔徜徉、有益な見学を成す。宇野茂樹先生御指導の許に。参加三十八名。

六月六日 長年懇切なお世話を仕て下っていた酒井全太郎氏が御急逝、本当に悲しい残念な事でございます。恭々しくお悼み申上ぐる次第。

七月二十三日から二十四日にかけての一泊見学会を成す。

第一日は米原町の青岸寺、蓮華寺を、徳源院では沢山の宝篋印塔を拝観出来て、殊の外に有益、宿は醒ヶ井養鱒場で、涼しく静かで、鱒の珍しいお料理を。

第二日は長浜で総持寺、神照寺、米原へ帰って真広寺と計六ヶ寺を廻った。

矢張講師は滋賀女子短大教授の宇野茂樹文学博士で、相い變らず御懇切な御説明に一同十分満足させて頂く。参加者三十九名。

八月二十二日から二十七日迄での六夜、市内長堀の住友さんの茶隴山道場で、会長木村英一先生による第五回の夏季古典講座としての論語の通読をさせて頂き、巻十四より巻を終る。

来年もう一回御統講を願ひ、完結の予定。出席者延べ九十八名。御懇切且つ種々例証をお挙げ頂いて御蘊蓄をお傾け下さる先生のお心配りは皆等しく深謝の外なく、殊に最終日は態々貴重な拓本とまた叶魯番から出土の茶話会で年少者の筆に成る論語の古文書など、殊の外に興味が津々として、先生の御厚意に対しては満腔のお礼を申し上げます。

(中島記)

新入会者 岩井佳子、栗生照子、太田美都子、坂上竜二、田林寛治、中野杜充子、久島 勉、鍛崎孝三、山本櫛親。酒井正雄。

退会者 藤沢鶴子。

死亡者 山本櫛信、酒井全太郎。